

Bridge Report モバイルファクトリー (3912)

 宮脇 裕二 社長	会社名	(株)モバイルファクトリー	
	証券コード	3912	
	市場	東証1部	
	業種	情報・通信	
	社長	宮脇 裕二	
	所在地	東京都品川区東五反田 1-24-2	
	事業内容	スマホ・従来型携帯向け交流ゲームや着メロの開発・配信会社。位置情報連動型ゲームに注力。ブロックチェーンアプリの普及、ネットワーク開発。	
	決算月	12月	
	HP	http://www.mobilefactory.jp/	

- 株式情報 -

株価	発行済株式数(自己株式を控除)	時価総額	ROE(実)	売買単位	
1,741円	9,150,406株	15,931百万円	25.2%	100株	
DPS(予)	配当利回り(予)	EPS(予)	PER(予)	BPS(実)	PBR(実)
-	-	-	-	235.32円	7.4倍

*株価は08/01終値。発行済株式数は直近四半期末の発行済株式数から自己株式を控除。ROE、BPSは前期末実績。

- 連結業績推移 -

(単位:百万円、円)

決算期	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS	DPS
2014年12月(実)	1,540	211	212	118	14.52	-
2015年12月(実)	1,751	314	305	185	20.01	20.00
2016年12月(実)	2,072	611	611	411	43.64	27.00
2017年12月(実)	2,437	736	722	511	54.18	17.00
2018年12月(予)	-	-	-	-	-	-

* 業績予想非開示。

* 2015年12月期より連結決算。2016年12月期より当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益(以下、純利益については同様)。

* 2016年10月、1株を2株に分割。2017年7月、1株を2株に分割(2016年12月期EPSを遡及修正)。

モバイルファクトリー2018年12月期上期決算の概要と通期の見通しについて、ブリッジレポートにてご報告致します。

- [1. 会社概要](#)
- [2. 2018年12月期上期決算](#)
- [3. 今後の方向性と取り組み](#)
- [4. 今後の注目点](#)

今回のポイント

・18/12 期 2Q(4-6 月)は前四半期比 37.7%の増収、同 74.0%の営業増益となり、四半期営業利益が過去最高を更新した。4 周年を迎えた「ステーションメモリーズ！」(略称:駅メモ!)の売上が伸びる中、コンテンツサービスが堅調に推移。ブロックチェーン関連のサービス開発も進んだ。上期の6ヵ月間では、売上の伸び悩みと広告宣伝費負担等による 1Q の苦戦が響き、前年同期比 16.1%の増収ながら、同 6.1%の営業減益。

・「スマートフォンアプリ市場の事業変化が激しく、新規サービスの状況についても不確実性が高いことから適正かつ合理的な数値の算出が困難である」として、18/12 期予想を非開示としている。主力の「駅メモ！」において、継続率重視の下、プロモーションを継続的に実施すると共に各種コラボや体験型イベントにも取り組んでいく。また、地方創生の取り組みも継続する。「駅奪取シリーズ」については安定運用重視で臨む。総還元性向 30%を目標に配当及び自己株式の取得を実施していく方針。

・国産「位置ゲーム No.1」企業を目指しつつ、中長期の成長に向け、ブロックチェーン関連事業の育成を目指す「Uniqys Project」を推進していく。仮想通貨取引等に用いられる技術として知られるブロックチェーン技術は国内外で関連市場の拡大が見込まれている。同社は、2018 年 3 月に「Uniqys Project」を始動させ、同年 7 月には、ブロックチェーン技術を活用したサービスを提供する連結子会社(株)ビットファクトリーを設立。プロジェクト第一弾となる新サービス「Quragé(クラゲ)」をリリースした。

1. 会社概要

位置情報連動型ゲーム(以下、位置ゲーム)を主力とするソーシャルアプリサービスと着メロ等のコンテンツを提供するコンテンツサービスが二本柱。10 年以上の実績を有するコンテンツサービスを安定収益源に、独自の境地を開いているソーシャルアプリサービスを成長ドライバーとしている。グループは、同社の他、「駅メモ！」及び「駅奪取シリーズ」の運営を行う(株)ジーワンダッシュ、及びブロックチェーンサービス事業を手掛ける(株)ビットファクトリーの 100%子会社 2 社。

経営理念は「私たちが創造するモノを通じて世界の人々をハッピーにすること」。ブランドメッセージとして、「感動を持ち歩け。」を掲げている。

【事業内容】

事業は、位置ゲームを中心とするソーシャルアプリサービスと着メロ等のコンテンツを提供するコンテンツサービスに分かれる。ソーシャルアプリサービスが基本無料アイテム課金制であるのに対して、コンテンツサービスは月額課金制(一部例外)である。17/12 期の売上構成比は、ソーシャルアプリサービス 65.5%、コンテンツサービス 34.5%

ソーシャルアプリサービス

「駅メモ！」及び「駅奪取シリーズ」の位置ゲーム 2 タイトルを中心に事業展開しており(「レキシトコネクト」は 2018 年 9 月にサービス終了)、SNS プラットフォーム(GREE、Mobage、コロプラ等)やアプリマーケット(App Store、Google Play 等)を通して配信している。2011 年 3 月にサービスを開始した「駅奪取シリーズ」は、身近な駅を他人と奪い合う競争要素、実際に訪れた場所が履歴として残るライフログ要素、奪取した駅や路線・称号等を集めるコレクション要素の 3 要素を有し、2014 年 6 月にサービスを開始した「駅メモ！」は「駅奪取シリーズ」の駅を奪い合ったり収集したりする楽しさを残しつつ、オリジナルキャラクターを育成する楽しさを追及した。一部イラストやシナリオについては外部委託先に制作依頼しているが、システム開発は社内内で対応している。

コンテンツサービス

主に通信キャリアが運営するサービスを通して着メロ等のコンテンツを提供している。着メロは、自社モデル形式の「最新曲★全曲取り放題」や(株)レコチョクとの協業サービス(OEM モデル形式)の「レコチョクメロディ」等、スマートフォンやフィーチャーフォン向けに月額 100 円(税抜)から 300 円(税抜)で取り放題というサービス。

強みは、自社内制作の高音質のサウンドに加え、ドラマ・映画・CM 等で話題が旬のうちに追加できる体制とノウハウ。着メロ音源の制作、サイトの開発及び運営は、原則、社内内で対応している(一部例外あり)。着メロ以外では、スタンプ素材とメロディの定額取り放題サービスを提供している。2004 年 5 月のサービス開始以来、10 年以上の運営実績を有し、その時々で効果的な広告手法を取り入れる事でユーザーの獲得に取り組んでいる。課金会員数は漸減傾向にあるが、原則内製でもあり、残存者利益を享受しているため収益性は高い。ただ、経営リソースはソーシャルアプリサービス及びブロックチェーン関連サービスに優先的に投下している。

2. 2018年12月期上期決算

(1) 第2四半期(4-6月)業績

(単位:百万円)

	17/12-1Q	2Q	3Q	4Q	18/12-1Q	2Q	前年同期比	前四半期比
売上高	586	592	568	690	576	793	+33.8%	+37.7%
売上総利益	396	366	387	431	375	428	+16.9%	+14.1%
販管費	169	197	238	241	239	191	-2.7%	-19.9%
営業利益	227	169	148	190	135	236	+39.8%	+74.0%
経常利益	227	155	148	190	135	236	+51.7%	+74.2%
四半期純利益	157	107	102	143	93	163	+51.9%	+74.8%
売上総利益率	67.6%	61.8%	68.1%	62.6%	65.1%	54.0%	-	-
販管費率	28.8%	33.2%	41.9%	35.0%	41.5%	24.2%	-	-

前四半期比 37.7%の増収、同 74.0%の営業増益となり、四半期ベースで営業利益が過去最高を更新

配信元変更に伴う増収要因もあった「駅メモ！」をけん引役にソーシャルアプリサービスが増収をけん引し、コンテンツサービスも減収ながら、「スタメロー スタンプ&メロディとり放題」(以下、スタメロ)は想定に沿って推移した。「駅メモ！」はプロモーション効果の精査により広告宣伝費が減少する中でDAU(一日のサービス利用者数)が過去最高を更新した。また、第1四半期の結果を踏まえた課金面での改善施策も成果をあげた。

「駅メモ！」(iOS/Android)は、2018年3月末に(株)フジゲームスから同社100%子会社(株)ジーワンダッシュへ配信元が変わった。このため、他社名義配信(OEM)による純額計上(売上高-プラットフォーム手数料)から同社名義配信による総額計上(売上高と売上原価であるプラットフォーム手数料を計上)に収益の計上方法が変更された。2018年3月末までは、「駅メモ！」(iOS/Android)、スマートノベル(Android)、レコチョコメロディ等(着メロ)が純額計上されていたが、配信元変更に伴い、4月以降、「駅メモ！」(iOS/Android)に係る収益は総額計上されている。

サービス別売上高

(単位:百万円)

	17/12-1Q	2Q	3Q	4Q	18/12-1Q	2Q
位置情報連動型ゲーム	349	366	340	469	362	605
その他	24	18	12	16	8	4
ソーシャルアプリサービス合計	373	384	352	486	371	610
コンテンツサービス	212	208	215	204	204	182
連結売上高	586	592	568	690	576	793
差引売上高	527	533	511	629	522	587

※ 差引売上高=売上高-(「システム利用料(売上連動)」+「回収代行手数料(同)」) ⇒ 純粋な同社取り分

売上原価の推移

(単位:百万円)

	17/12-1Q	2Q	3Q	4Q	18/12-1Q	2Q
システム利用料	39	41	38	43	37	190
減価償却費	7	50	4	5	4	0
外注費	9	9	8	13	11	10
その他	132	126	129	196	147	164
合計	189	226	181	258	200	365

販管費の推移

(単位:百万円)

	17/12-1Q	2Q	3Q	4Q	18/12-1Q	2Q
広告宣伝費	71	86	146	151	139	97
回収代行手数料	19	18	17	17	15	15
その他	77	92	74	72	83	78
販管費合計	169	197	238	241	239	191

(2) 上期連結業績

(単位:百万円)

	17/12期 上期	構成比	18/12期 上期	構成比	前年同期比
売上高	1,179	100.0%	1,369	100.0%	+16.1%
売上総利益	762	64.7%	803	58.7%	+5.3%
販管費	366	31.1%	430	31.4%	+17.7%
営業利益	396	33.6%	372	27.2%	-6.1%
経常利益	383	32.5%	371	27.1%	-3.0%
四半期純利益	264	22.5%	256	18.7%	-3.1%

※数値には(株)インベストメントブリッジが参考値として算出した数値が含まれており、実際の数値と誤差が生じている場合があります(以下同じ)。

前年同期比 16.1%の増収、同 6.1%の営業減益

売上高は前年同期比 16.1%増の 13 億 69 百万円。「駅メモ！」をけん引役に位置情報連動型ゲームが同 35.3%増と伸びた。「駅メモ！」は 4 周年記念キャンペーン効果で第 2 四半期に DAU(一日のサービス利用者数)が過去最高を更新した事に加え、課金面での改善施策も成果を上げた。また、「駅奪取シリーズ」も、Native 版が堅調に推移した。一方、コンテンツサービスは、自社運営の各着信メロディサービスでの課金会員数の減少で売上が同 7.9%減少したものの、想定に沿った推移。

営業利益は同 6.1%減の 3 億 72 百万円。2018 年 3 月に「駅メモ！」(iOS/Android)の配信元が、(株)フジゲームスから同社 100%子会社(株)ジーワンダッシュへ変わった影響で売上総利益率が低下する中、広告宣伝費を中心にした販管費の増加が負担になった。

サービス別売上高

(単位:百万円)

	17/12期 上期	構成比	18/12期 上期	構成比	前年同期比
位置情報連動型ゲーム	715	60.7%	968	70.7%	+35.3%
その他	42	3.6%	13	1.0%	-69.3%
ソーシャルアプリサービス合計	758	64.3%	981	71.7%	+29.4%
コンテンツサービス	420	35.7%	387	28.3%	-7.9%
連結売上高	1,179	100.0%	1,369	100.0%	+16.1%

(3) 財政状態及びキャッシュ・フロー(CF)

財政状態

(単位:百万円)

	17年12月	18年6月		17年12月	18年6月
現預金	1,773	1,615	買掛金	16	20
売上債権	587	516	未払法人税・消費税等	134	125
流動資産	2,431	2,201	賞与引当金	45	35
有形固定資産	30	27	負債	336	396
投資その他	84	74	純資産	2,223	1,917
固定資産	128	113	負債・純資産合計	2,559	2,314

上期末の総資産は前期末と比べて 2 億 45 百万円減の 23 億 14 百万円。自己株式の取得で現預金と純資産が減少した。自己資本比率 82.9%(前期末 86.9%)。

キャッシュ・フロー(CF)

(単位:百万円)

	17/12期 上期	18/12期 上期	前年同期比	
営業キャッシュ・フロー(A)	242	406	+163	+67.5%
投資キャッシュ・フロー(B)	-20	-3	+17	-
フリー・キャッシュ・フロー(A+B)	221	402	+181	+81.6%
財務キャッシュ・フロー	-124	-560	-435	-
現金及び現金同等物期末残高	1,529	1,615	+85	+5.6%

3. 今後の方向性と取り組み

短期的には、国産「位置ゲーム No.1」企業を目指しつつ、中長期の成長に向けたブロックチェーン関連事業の育成に取り組む。「位置ゲーム」では、けん引役となる「駅メモ！」において、新規ユーザーの獲得やユーザーの継続率を重視してプロモーションを継続的に実施すると共に、引き続き各種コラボや体験型イベントにも取り組んでいく。また、地方創生の取り組みも継続する。「駅奪取シリーズ」については安定運用重視で臨む。ブロックチェーン関連事業では、自社開発の分散型アプリケーション開発キットの Uniqys Kit と、ウォレット機能付き DApps (DApps: Decentralized Applications) ブラウザアプリの「Quragé」(後述)の利用者拡大に力を入れる。

一方、中長期的には、自治体・鉄道事業者等との連携による O2O (オンライン to オフライン) や地方創生分野での取り組みによる「位置ゲーム」の安定成長とコンテンツの安定成長を継続しつつ、ブロックチェーン関連事業において「Uniqys Network (後述)」の開発・運用に注力する。

【位置ゲーム・コンテンツ】

ジャンル	タイトル/サービス名	コメント
位置ゲーム	ステーションメモリーズ!	継続注力! 1. 継続的な機能改善(エンゲージメント向上施策) 2. 精緻な ROAS (広告の費用対効果) 管理による新規ユーザー獲得 3. 地方自治体、鉄道事業者とのタイアップ(地方創生/O2O 施策) 4. 親和性の高い他社 IP とのコラボの継続
	駅奪取シリーズ	収益に見合ったリソース配分実施
コンテンツ	スタメロ	配信コンテンツの強化や仕組み改善を継続
	らくメロ	

【ブロックチェーン関連サービス】

ジャンル	タイトル/サービス名	ロードマップ
ブロックチェーン関連サービス	Uniqys (ユニキス)	2018年3月 : プロジェクト始動 2018年7月 : Uniqys Kit プレビュー版公開 : Quragé Android 版公開 : Quragé Magazine 公開 2018年3Q : Quragé iOS 版公開 2018年4Q : Uniqys Kit ベータ版公開 2019年予定 : Uniqys Kit 正式公開

Uniqys Project

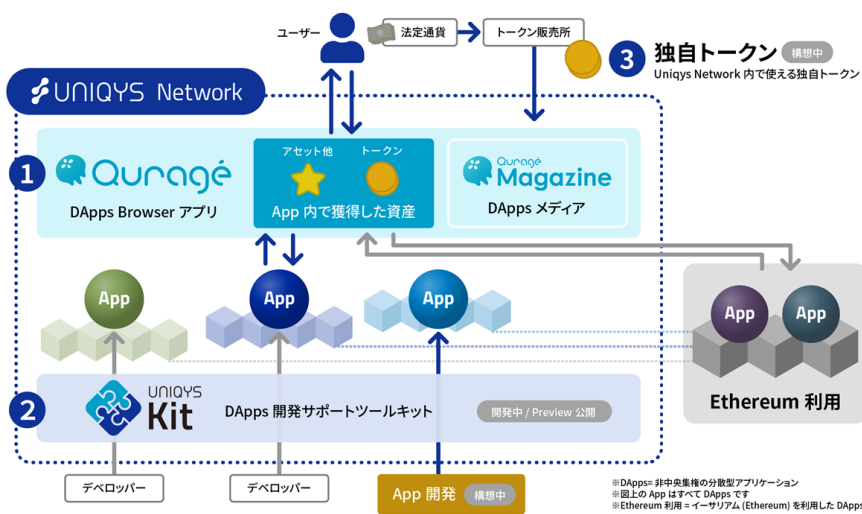
分散型アプリケーション (DApps: Decentralized Applications) の普及を目指し、手軽に DApps を利用できるモバイルユーザー向けサービス「Quragé」と、手軽に DApps を開発できるデベロッパー向けサービス「Uniqys Kit」を包括する「Uniqys Network (ユニキス ネットワーク)」を構想中である。

2018年7月25日にはモバイルユーザー向けサービス「Quragé」Android 版をリリースし、同日、デベロッパー向けサービス「Uniqys Kit」のプレビュー版を公開した。「Quragé」iOS 版は年内のリリースを予定しており、「Uniqys Kit」については、2019年の正式版リリースに向け更に開発を進めていく。非中央集権の DApps の時代を実現する「Uniqys Network」を通じて、多くのユーザーとデベロッパーに DApps を普及させたい考え。

DApps とは

DApps とは、仮想通貨の根幹技術であるブロックチェーンを利用して、中央管理者なしで運営・管理できるアプリ。DApps の大半はイーサリアムのプラットフォーム上で開発されており (イーサリアムはアプリケーションを開発するプラットフォームとして誕生した)、特徴は、(1) アプリケーションがオープンソースであり、オペレーションが自動で、中央による管理ではない事、(2) アプリケーションのデータや記録はブロックチェーンを利用している事、(3) オープンに流通可能な暗号化トークンを持ち、アプリケーションを利用する際にはそのトークンを利用する事。仮想通貨も DApps の一つである。

「Quragé」と「Uniqys Kit」によって作り出す世界「Uniqys Network」



① Quragé

DAppsの利用に特化したモバイル向けのブラウザアプリ

② Uniqys Kit

デベロッパーが最も楽にDAppsを開発できるサポートツール

③ 独自トークン

Uniqys Network上のDAppsで利用可能な独自トークンを構想中

※独自トークンの法令上の扱いについて、必要に応じ監督官庁へ相談を行ってまいります。今後、仮想通貨交換業登録が必要とされる可能性があります。「トークン販売所」は外部のものを想定しており、自社グループにて販売所を開発・運営する予定は現時点でございません。

(同社資料より)

「Uniqys Network」は、「Uniqys Kit」と「Quragé」で作りに出す世界である。

「Quragé」とは、DAppsの利用に特化したモバイル向けのブラウザアプリ。DApps ブラウジング機能やウォレット機能を有し、同社グループが提供する「Quragé Magazine」を起点とした様々な DApps を利用することができる。一方、「Uniqys Kit」とは、「Uniqys Network」上の DApps 開発をサポートするツールキット(デベロッパーが手軽に DApps を開発するためのサポートツール)。一般的な Web アプリケーションと同様に、作りやすい言語で DApps 開発することができる。

また、「Uniqys Network」上の DApps で利用可能な独自トークンの提供・流通についても検討している。日本国内向けについては、実施の時期やスキームなど詳細は未定だが、既に独自トークンの法令上の扱いについて監督官庁と話し合いを進めており、海外向けについては、現地のコンプライアンス等を確認した上で、独自トークンを流通させる方向で考えている。

4. 今後の注目点

現在、イーサリアムを使ったアプリは 1,000 個程度に過ぎないが、2~3 年後には、その 100~200 倍に拡大している可能性がある、と言う。その成長市場において、ユーザー接点とデベロッパー接点を持つ「Uniqys Network」は大きな価値を生み出す、と言うのが同社の考え。2 年程度の投資期間が必要になりそうだが、それを信じて投資していく、と言う。ゲームビジネスのリスクの高まりを考えると、ゲームと異なる分野に経営リソースを振り分ける事は賢明だし、事業が軌道化すれば、安定した収益が期待できるため収益体質も変わる。Uniqys Project の進捗に期待したい。

参考:コーポレート・ガバナンスについて

◎組織形態及び取締役、監査役の構成

組織形態	監査役会設置会社
取締役	4名、うち社外2名
監査役	3名、うち社外3名

◎コーポレート・ガバナンス報告書

更新日:2018年03月28日

基本的な考え方

当社グループは、お客様、株主様、さらには社会全体の信頼と期待に応え、企業価値の極大化のために、法令遵守に基づく企業倫理の確立が最重要課題であると認識しております。そのために、リスク管理、監督機能の強化を図り、経営の健全性・透明性を高め、もって経済社会の発展に寄与していく所存であります。

<実施しない主な原則とその理由>

【原則 4-11-③】

社外役員を含む各取締役、各監査役の意見等に基づき、取締役会の機能向上に努めておりますが、現時点において取締役会の実効性についての分析・評価は実施しておりません。今後、取締役会の実効性に関する分析・評価の実施及びその結果の開示については検討してまいります。

<開示している主な原則>

【原則 1-4】

当社は、政策保有株式については、事業上の連携強化等、当社の企業価値の維持向上に資すると判断した場合に保有する場合があります。なお、現時点において上場株式を保有しておりません。

【原則 1-7】

当社は、関連当事者との取引については、その取引を行うことが合理的であるか等を考慮しております。また、取引条件が他の取引と比較して適正であるか等に留意して、取締役会の承認を得ることとしております。

【原則 3-1】

- (1) 企業理念は、会社ホームページ、有価証券報告書、招集通知、決算説明資料等にて開示しております。
- (2) コーポレート・ガバナンスの基本方針は、コーポレート・ガバナンス報告書に記載しております。
- (3) 取締役の報酬は、株主総会が決定した報酬総額の範囲内で、取締役会で決定しております。
- (4) 取締役及び監査役は候補の指名を行うに当たって、候補者の知識・経験・能力等を考慮すると共に、総合的に勘案して指名しております。
- (5) 取締役及び監査役候補者の選任理由を招集通知に記載しております。

東証コーポレート・ガバナンス情報サービス:<http://www2.tse.or.jp/tseHpFront/CGK010010Action.do?Show=Show>

本レポートは情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。また、本レポートに記載されている情報及び見解は当社が公表されたデータに基づいて作成したものです。本レポートに掲載された情報は、当社が信頼できると判断した情報源から入手したものです。その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。当該情報や見解の正確性、完全性もしくは妥当性についても保証するものではなく、また責任を負うものではありません。本レポートに関する一切の権利は(株)インベストメントブリッジにあり、本レポートの内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。

Copyright (C) 2018 Investment Bridge Co., Ltd. All Rights Reserved.

▶ アラート申込み

モバイルファクトリーの適時開示情報の他、レポート発行時にメールでお知らせいたします。

▶ 登録データ変更

既にご登録済みの方で、登録内容に変更がある場合や登録解除の方は、こちらよりご変更ください。



ブリッジサロン
公式 twitter アカウント

(株)インベストメントブリッジの発行するブリッジレポートや投資家向け会社説明会の映像情報をつぶやいています。

ブリッジレポート(モバイルファクトリー:3912)のバックナンバー及びブリッジサロン(IRセミナー)の内容は、www.bridge-salon.jp/ でご覧になれます。